



シカゴで過ごした時間も
二人の良き思い出に

アメリカ研修で大きな成果

中学生の米国教育文化研修派遣事業（岩手国際理解推進協会主催）に本町から遠藤祐子さん（江刈中3年）と和田ゆりえさん（葛巻中3年）が参加しました。3月5日から16日までの11日間、インディアナ州ナイツタウンでホームステイや学校の授業体験などを通じて見聞を広げました。研修に参加した2人の感想を紹介します。

生活や文化は違っても変わらない人の心



遠藤祐子さん

私は3月5日から16日までの11日間、アメリカのインディアナ州に行ってきました。私にとって、この11日間はとても貴重な体験となりました。

これまで私は、日本とアメリカのこと、ましてや世界のことなんて考えてみたこともありませんでした。今思うとすごく狭い視野で物事を考えていたと思います。

アメリカでの学校生活は、毎日が新鮮で発見と驚きばかりでした。日本の学校のような休み時間はないし、部活動もありません。ピアスや化粧をしている子もたくさんいるし、授業中に飲み物を飲んでいても先生にしかられません。しかし、私語はなく、みんな手を挙げて質問し、まじめに授業に取り組んでいて驚きました。

文化の違いを一概に論じることはできませんが、一見不まじめそうな姿の彼らが真剣に授業に臨む姿はとても新鮮に映りました。

ホームステイ体験でも言葉や文化、習慣が違って、お互いに分かり合えるということが分かりました。私の片言の英語でもきちんと理解してくれたし、身振りや手振りをつけて分かりやすく話しかけてくれました。

私はこの研修に参加し、前よりも視野が広がり、さまざまな人や場所、ものに出会い、その都度いろいろ学びとることができたと思います。

国が違っていても、人の感情や親切さは変わらないことを、みんなに伝えていきたいと思っています。



二人を温かく受け入れてくれた
ホストファミリーとともに

多様な世界を受け入れて尊重できる人に



和田ゆりえさん

私はホームステイの直前まで「アメリカの家庭で生活できるだろうか」と心配していましたが、ホストファミリーは私たちをととても歓迎してくれました。事前に何度もメールで情報を交換していたので、やってみたいことや行きたい所などたくさん体験の機会も準備してくれていました。

ホストシスターと一緒に学校にも通いました。初日のスクールバスの中では、私もアメリカの人たちも緊張して何も話せませんでした。2、3日たつと笑顔を見せ、日本語で話しかけてくれるようになり、とてもうれしかったです。

ホームステイ先では、私たちがそばやおにぎりを作って食べてもらったり、浴衣を着せたりもしました。ホストファミリーは、いつも愛情をもって接し「ゆりえを通して、今まで知らなかった日本が大好きになった」と言ってくれました。礼儀正しさやチャレンジする姿勢をストレートに褒めてくれるのもアメリカらしく、とても気持ちのいいものでした。

ナイツタウンとの別れの時は、みんなで泣きました。また必ず訪れ、再会したいと思います。

この研修で学んだことはたくさんあります。言葉が不十分でも意思を伝え合うことは出来ます。自分の知っている空間のほかに多様な世界があることを体験し、私はさまざまな事を受け入れられ、尊重できる人でありたいと思います。

私の感謝の気持ちが、お世話になったすべての人に伝わることを願っています。